

編集後記

今月号の特集は「臀部の皮膚疾患」である。臀部に現れる皮膚病は、炎症、腫瘍、感染、薬疹、形成異常など実に多岐にわたることに驚かされる。臀部は座位で常に体重・負荷がかかる点、肛門周囲であり細菌や真菌に汚染されやすい点、さらにおむつをしている人なら蒸れや物理化学的刺激が加わる点、などの特殊な環境要因が付加されるために、皮膚病変が修飾されて複雑になったり、非典型的になったりして診断に苦慮することも多い。皮膚科医にとっては経験と想像力が求められる、やりがいのある部位別病変なのかもしれない。

しかし小児の臀部の皮膚疾患は成人ほど多彩ではない。Common diseaseはおむつかぶれで、これはおむつ着用時期にはほぼ100%の小児が一度は経験すると言っても過言ではない。「ついでおむつかぶれもみてもらってよろしいですか?」と聞かれることは日常茶飯事である。おむつ部カンジダ症だけを否定すれば、ほぼおむつかぶれである。まずはスキンケア方法を伝授する。最近では核家族が多いため、新米ママにはおばあちゃんの知恵袋的な教育がまったくされていないと感じるので、私がその代わりを務めているつもりである。しかし最近は昔のようなひどいおむつかぶれは減ってきている。それは日本のおむつが素晴らしく高品質になったからである。ある有名ブランドメーカーのおむつ開発部の研究者と一緒に仕事をする機会があったが、彼らは実に熱心に膨大な時間と投資をして、さらなるおむつの品質向上に向けて、研究を続けていることに感服させられた。蒸れにくいおむつはもとより、おむつの表面にワセリンのようなものをコーティングして皮膚炎を防ごうとさえしている。中国などの旅行者が、この日本の高品質のおむつを大量に爆買いしていくとも聞いている。(N.B.)

次号予告

Vol.41, No.3

特集 DIHS(仮)

◆editorial

馬場 直子

◆topics

薬剤性過敏症候群診療における血清TARC値の有用性

西村 友紀, 浅田 秀夫

◆統計

Drug-induced hypersensitivity syndromeの病理組織学的検討

木村 浄土ほか

◆臨床例

ヒトヘルペスウイルス6Bをウイルス分離培養で同定した

薬剤性過敏症候群 白田 千穂ほか

腎不全が出現し死の転帰を辿った薬剤性過敏症候群の2例

影山 玲子ほか

経過中敗血症、急性腎不全、無顆粒球症、ディフィシル腸炎を

合併し治療に難渋した薬剤性過敏症候群

高橋 一夫, 梅本 淳一

DIHS発症後皮膚にGVHD様反応が長期に続いた1例

三宅 智子ほか

慢性甲状腺炎を合併したアロプリノールによる

薬剤性過敏症候群 松井 彰伸ほか

B型肝炎ウイルスの関与を考えたDIHS/DRESS疑いの1例

中川 幸延ほか

血液中に一過性のHHV-6 DNAコピー数の上昇を確認した

薬剤性過敏症候群(DIHS) 中塚 万莉ほか

ラモトリギンによるDIHSの2例 辻野 佳雄ほか

急性期に合併した細菌感染症に対する治療のみで軽快した

薬剤過敏症候群 陶守真貴子ほか

心筋炎を合併したメキシレチンによる薬剤性過敏症候群

遊佐 志乃ほか

Drug-induced hypersensitivity syndrome 略治後に

心筋梗塞で死亡した1例 菊池 信之ほか

Loop-Mediated Isothermal Amplification(LAMP)にて

HLA-A*3101を検出したカルバマゼピンによるDIHSの2例

新原 寛之ほか

TENとの鑑別を要したDIHS

青山 和弘ほか

◆皮心伝心

樋口 哲也

◆私の視点

手相を診る

戸倉 新樹

◆蝶の博物詩

西山 茂夫

◆診察室の四季

斉藤 隆三

◆皮膚科のトリビア

浅井 俊弥

◆声(質疑・応答を歓迎します)

皮膚病診療 Vol. 41, No.2(2019)

平成31年1月25日印刷

平成31年2月1日発行

1部定価2,800円(本体)+税 送料別

年ぎめ予約購読料39,000円(本体)+税

発売所/丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階

TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 斉藤 隆三

発行人 山田 淳史

発行所 株式会社協和企画

〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5 3階

電話: 03-6838-9200(代)

振替口座: 00190-0-36746

印刷所 株式会社 エイチケイ グラフィックス

ご購入ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2019年

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。